

Mutsumi

睦眉会会報

発行者

徳島大学睦眉会

徳島大学医学部保健学科同窓会

徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509

徳島大学医学部保健学科内

TEL/FAX: 088-633-9067

E-mail: mutsumi.jim@gmail.com

発行責任者 河田明男

睦眉会の皆様へ

睦眉会の皆様、日ごろは本学の教育研究についてご理解とご支援を賜り、本当にありがとうございます。睦眉会の会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。平成25年4月に、多田先生の後任として、学科長を拝命しました。ご報告と今後のさらなるご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

現在、大学が大きく変化しようとしています。文科省は平成24年に「大学改革実行プラン」を発表し、平成25-29年度の期間を大学改革の実行期間に当てています。保健学科も徳島大学の一員として、昨年より大学のミッション(目指すべき新しい大学像)の作成に取りかかりました。文科省とも相談し、保健学科のミッションの強みや特色として、以下の4項目が決まりました。

- ①四国地区の国立大学で唯一、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の学部から大学院博士課程まで一貫した教育体制や医療系3学部5教育部を有する環境を活かし、倫理観や実践力のあるチーム医療、地域医療、国際医療に貢献できる医療人を育成する。
- ②大学院では高度な実践力や研究能力を育成し、地方大学等の看護・医療技術系教育を担う教員の充実に貢献するとともに、がん看護専門看護師や放射線治療専門診療放射線技師、医学物理

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学教育部長

近藤 和也



士、超音波検査技師等の高度専門職医療人の育成を推進する。

- ③学部・研究分野の枠を超えた教育研究活動を行い、複合的な視点で医療・保健を評価・分析・理解する能力を有する若手研究者を含む幅広い研究者を育成する。子どもの心の問題の発症予防や電子看護管理システム等をはじめとする、他の医療系分野や人文・理工系分野との連携を活かした研究や地域貢献を推進する。
- ④積極的に国際交流を推進し、国際的視野から保健医療を担うことができる医療人及び世界的な研究成果やイノベーションを創出できる研究者を育成する。

これらのミッションに従い、徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部の立地条件を生かし、高度専門医療人と研究者を教育し輩出していく決意です。

同窓会の皆様には、今後さらに徳島大学医学部保健学科および大学院の将来に関心を寄せていただき、ご支援・ご高配をいただけますようお願いいたします。



ミナツキ
ユキノシタ科

時間の過ごし方

やっと秋めいた候となりました。今年は猛暑の夏で、皆様大変な夏を過ごされたでしょう。机に向かって書物を開き、物事を考える時間が増える頃でもあります。さて人は等しく1年365日24時間の時間を過ごします。幼年、少年、壮年、熟年、老年と変わりますが、各々の時期における「時間の過ごし方」には自他に与える影響に差異があります。幼い時と学生期、社会人としては、自己を取り巻く環境の量的的人的大きさに絶対差があります。

学習し社会訓練に明け暮れる日々と、会社で地域で活躍し認められ評価され期待される存在で、後進を育み見守る日々とでは「時間の過ごし方」に大きな違いがあり、周りの人々に与える影響には自ずと違いがあります。若い時は自分の課題をクリアする事だけに汲々として時間が過ぎていきます。長じて組織の管理的立場に就くと、自己の下した決定で招く結果と、その社会的影響を日々考えざるを得なくなります。医療



サルトリイバラ
(サンキライ)
ユリ科

徳島大学睦眉会会長 河田 明男

徳島大学医学部附属診療放射線技師学校3期生



技術者の日々は人の命に直結する場面の連続です。技術・知識の習得は当然で、ケアする専門職としてのホスピタリティの向上が求められます。認定看護師、専門技師の出現は当然の帰結でしょう。少子化・高齢化の本邦において医療技術者の存在と一層の活躍は社会が求める事です。1日24時間、8時間勤務、8時間睡眠とすれば自由時間は8時間です。組織の一員としての時間と社会の一員としての時間の存在を常に意識して、より良い時間の使い方を考えれば周りの期待、自己の責任、モチベーション高揚の必要性が理解できます。現時点での自己の足元を見つめ、短期・中期の目標を掲げて実現する策を練る事で自己実現が可能となります。周りとの自己の相関を念頭において客観視し行動する事が結果として、組織内評価、社会的評価を得られる事に直結すると思います。その為には独善では成し得ません。沢山の先輩、友人、同僚、部下、異業種のリーダー、大学の研究者等々と濃密な時間を共有し、異なった知的刺激が得られる環境を創る努力こそが最重要だと思っています。

同窓生通信

長年の夢であった国際協力活動

徳島大学医学部保健学科看護学専攻1期生

増矢 幸子

みなさん、こんにちは。私は今、中米のグアテマラで青年海外協力隊員として活動しています。職種は助産師で、モモステナゴ市の保健センターが配属先です。

医学部保健学科看護学専攻1期生として徳島大学を卒業してから、もう7年が過ぎました。私が保健学科に入学したのは、中学生のときに読んだ本がきっかけで「医療技術を身につけて国際協力の現場で働きたい」という夢があったからでした。卒業後は、大阪府立母子保健総合医療センターに助産師として就職し、同センターで6年半の経験を積



保健センターのとなりに住む子どもたちと

んだ後、青年海外協力隊に応募し、今に至ります。私が活動しているグアテマラには助産師という専門職がなく、約半数の女性が伝統的産婆のもとで自宅出産をしています。しかし、正しい医療知識がなく、危険兆候を見逃してしまうなど様々な問題を抱えています。そのため、同僚と共に伝統的産婆への研修、住民への保健教育などを行っています。今、夢だった国際協力の現場で働けることにとてもやりがいを感じています。また、国際協力の現場における母子保健医療分野の重要性を実感しています。自分が納得できる活動を実現し、成果を残すためにはまだまだ努力が必要ですが、日々奮闘しています。学生時代に学んだ基本、そして就職してからの経験を活かし、1年数ヵ月後に日本に帰国する頃、笑顔で活動のご報告ができればと思います。

んだ後、青年海外協力隊に応募し、今に至ります。

私が活動しているグアテマラには助産師という専門職がなく、約半数の女性が伝統的産婆のもとで自宅出産をしています。



女性グループのイベントでの講演

しかし、正しい医療知識がなく、危険兆候を見逃してしまうなど様々な問題を抱えています。そのため、同僚と共に伝統的産婆への研修、住民への保健教育などを行っています。

今、夢だった国際協力の現場で働けることにとてもやりがいを感じています。また、国際協力の現場における母子保健医療分野の重要性を実感しています。自分が納得できる活動を実現し、成果を残すためにはまだまだ努力が必要ですが、日々奮闘しています。学生時代に学んだ基本、そして就職してからの経験を活かし、1年数ヵ月後に日本に帰国する頃、笑顔で活動のご報告ができればと思います。



ビジョンとハードワーク

徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科14期生
大阪大学大学院医学系研究科先端移植基盤医療学

津田 秀年

私は徳島大学を卒業後、大阪大学に編入学し、同大学院にて修士号および博士号を取得しました。大阪大学に入学後は腎臓病学と移植免疫学に関する研究と、国立循環器病研究センターにて再生医療に関する研究を行うことになり、現在も両施設で研究員をしています。

まだ浅い研究歴ですが幸い順調に成果を出せ、国内外での学会発表やシンポジウムを経験し、第46回中四国支部医学検査学会では再生医療をテーマに教育講演をさせていただきました。有給の立場で研究することは本当に大変で、日々、研究成果をあげられることを求められる厳しい世界です。ノーベル賞を受賞された山中教授でさえ自分の研究が周囲から理解されず大変苦労されました。しかし、「ビジョンとハードワーク」、つまり目標をはっきり持ち一生懸命やることを信念に努力された結果が今日の業績となってい

らっしゃいます。

私が徳島大学にいた当時は検査技師の育成に力を注がれ、まだ大学院もない頃でした。今は大学院も後期課程まであり、教育・研究ともに充実した環境になっていますが、それでも、まだまだ研究志望の学生は少ないと思います。臨床検査技師は、医学の知識に加え、実験器具や機器の扱い、遺伝子学や免疫学的手法に慣れた研究者にも適正のある職業といえます。臨床を経験した後に、製薬企業等において疾患治療や検査法の研究を行ったり、検査機器メーカーで測定・診断機器を開発したり、大学や国の研究機関で研究を行うなど得た知識を生かす選択肢は多くあります。どのような選択をするにしても、一時的な興味や印象ではなく、その先にある仕事や社会が求めるものとのバランスを考慮し、ビジョンを大切に一生懸命取り組むことが重要だと思います。まだまだ駆け出しの身ですが、研究にご興味があればいつでもご連絡お待ちしております。tsuda@ncvc.go.jp



モミジガサ
キク科

近畿の放射線技師学校の同窓会『藍眉会』に参加しました

徳島大学医学部附属診療放射線技師学校11期生
四国がんセンター

安友 基勝

私は54歳の診療放射線技師。当時はまだ専門学校であった徳島大学医学部附属診療放射線技師学校を卒業以来、30有余年、診療放射線技師という仕事をひたすら行ってきました。というか、それ以外の仕事は出来ない専門バカです。今は、愛媛県松山市にある四国がんセンターで、やはり診療放射線技師として仕事をしています。ご承知のとおり、国立病院機構では転勤が多く、ここ四国がんセンターには2年前の2011年4月から勤務しています。徳島県の東徳島病院で長く仕事をしていたのですが、7年前に単身、岡山県に転勤し、そして広島県を経て、ここ松山でやはり単身赴任生活。初めは、慣れない単身赴任生活に戸惑っていたのですが、最近では、『単身生活も気ままでいいものだ』とひとりの時間を優雅な時間と感じながら、日々を過ごしています。

卒業から30年、私たちの身の回りの多くのものが様変わりをしました。職場では、自動現像機が無くなり、IPやフラットパネルなるものがX線撮影の現場に登場し、また、MRIなる画像診断装置が独特な音を響かせながらせかせと働いています。生活環境も変わりました。当時は四国には高速道路は無く、徳島から松山までは4時間以上かかったのが、今では2時間足らず、岡山に行くにも大阪に行くにも船に乗らなくては行けなかったのが、車で簡単に行き来出来るようになりました。また、電磁調理器なるものが出現し、火を使わずに煮炊きが出来ようになりました。

一方、変わらないのは昔を懐かしむ人の心でしょう。今でも、志を共にした仲間と学んだ（主には遊

んだ）時代を懐かしく思い出されます。6月2日、近畿地方に在住する徳島大学の放射線技師学校・短大・大学の卒業生で作る、『藍眉会（あいびかい）』の春のイベントなるものに出席しました。島津製作所本社・三条工場に集合し、新しい技術を集めたX線撮影装置の展示・説明を受け、続いて工場見学。X線管の製造工程などを見学し、学生時代、研修旅行でここ島津の工場見学しX線管の製造工程での職人技に感動したことが鮮明に思い出されました。また移動した島津資料館では、明治期のX線発生装置や科学実験機材などの展示品を見学し、学生時代に帰った思いで品々を見入っていました。



近畿で活動する藍眉会は、1999年11月20日に、阪大病院で勤務していた中村さん（初代会長）、近畿大学の宇都さん（現会長）、北野病院の小阪さん（事務局長）他、各年代の有志が中心となり近畿地方に在住する徳島大学の放射線技師学校・短大・大学の卒業生に呼びかけ発足しました。毎年秋に行われる総会では研究発表や勉強会、最近では春のイベントと合わせて年2回の会合を持つなど活発に活動をしています。放射線技師学校のみ集まりではありませんが、そこに参加されているメンバーは皆、同じ仕事に就いていることもあり、和気あいあいとした雰囲気を醸しつつ、結束力の強い仲間意識のようなものを感じさせます。そこには、昔と全く変わらない、熱い心が息づいていました。





人に恵まれて出発

徳島大学医学部附属看護学校15期生
徳島大学医学部附属助産婦学校10期生
ウェルネス橋本助産所

橋本 公子

社会生活の中で、自分の行動を決定する起爆剤ともいえる言葉に出会うことがあります。自分が助産所の開設に至ったきっかけはまさにそれであり、一人の母親の言葉からでした。それは、一人の母親が出産後、完全母乳育児をめざし、よく起こる乳房トラブルから解放されたいと、夫婦で県外まで複数の助産所に出掛けていた母親のケアをした時の事でした。「徳島では母乳育児に困った時にケアを受けられる助産所をネット検索する事ができない。」との母親の言葉は、助産師として専門家でもある自分の心にぐさりと刺さるものでした。徳島に助産所が無いわけではなかったのですが、情報社会から知識を求め若い世代にとっては、親切な案内とは言えなかったと

言わざるを得なく、何とかしなければと思い立ったのが動機でした。そう思うと不思議なもので、開設に必要な場所・改修工事の設計・施工、システム、備品の調達等のそれぞれの専門家達が素早く立ち上げに関わっていただき無駄がなく、心地良い風が後から吹いてくるかのように、善意に満ちたスタートでした。助産所でのケアは、単に母乳トラブルの対応だけではなく、母親の健康教育や精神的問題と、子どもの育児・発育の促進・養育上の問題・家族間の問題等多岐にわたり、一人一人違った対応が必要となります。正常からの逸脱には医師との連携が欠かせなく、医師から助産師のケア方針を認められるとほっとします。最近、大きな力で助産師を支援していただける大先生との出会いには本当に感謝しています。多くの方々の力に支えられている自分も、自分と家族の健康の続く限り、母親達を支え続けたいと思っています。



フキ
(フキノトウ)
キク科

平成24年度 徳島大学同窓会連合会交流会(びざん会)に出席して

徳島大学睦眉会理事
徳島大学医学部附属看護学校28期生
徳島大学病院

岩佐 京子

平成24年10月11日(木) 19:00~21:00 阿波観光ホテルにて開催された徳島大学同窓会連合会交流会に睦眉会から河田会長、坂野副会長、梅野理事、市原理事、前田理事、岩佐の6名が出席しました。まず香川学長の挨拶があり、徳島大学全学部の今年度の業績や新設された施設や現在工事中の施設、トピックスなどスライドで説明がありました。

その後、各同窓会代表の挨拶、懇談会中は各学部長の現状報告がありました。

びざん会は平成18年1月から年1回開催されています。8つの同窓会が所属し、私たちの睦眉会は医学部保健学科、渭水会は総合科学部、青藍会は医学部医学科、栄友会は医学部栄養学科、蔵歯会は歯学部、薬友会は薬学部、工業会は工学部、六一会は大学開放実践センター



とそれぞれの学部などの卒業生や在校生が所属しているのです。

今回、びざん会に出席は初めてのことであり、好奇心と役員としての役割を果たす思いでしたが15名の名誉教



授や各学部の先生方も含め約80名の出席で、やや緊張した雰囲気の中会で会食したり談話したり、他の学部の現状報告を聞いたりの有意義な2時間でした。

当日資料でいただいたニュースレターや徳大広報の「とくtalk」を読んで徳島大学の卒業生、学生や教職員の活躍がうかがえました。

今後も睦眉会の役員として微力ながら役割を果たして参りたいと思います。



ヤマシャクヤク
キンポウゲ科



江本 賢治
えもと けんじ

徳島大学医学部附属診療エックス線技師学校
昭和42年卒業

(元)徳島大学医学部歯学部附属病院
診療支援部診療放射線技師長

昭和42年卒業後、徳島大学病院に奉職され、放射線部において37年にわたり主任技師、副技師長、技師長と歴任されました。技師長としては、平成14年から中央診療棟再開発に伴う放射線部移転や新設機器導入を行い、診療各科と綿密な打ち合わせのもと、検査停止期間を生じさせないよう移設計画を作成実行しました。これにより最短期間で機器使用許可を受け、すべての装置を稼働させることができました。平成15年診療支援部診療放射線技師長を最後に退職され、平成16年4月より徳島市内の民間病院で勤務されています。

その後、平成24年秋の叙勲において、これまでの功績に対して瑞宝双光章を授与されました。これは同期生の西本宏志氏と同時受賞であり非常に喜ばれていました。

現在も月の半分ほど、医療の現場でご活躍中です。



活躍する卒業生



(徳島大学ホームページ、同窓会連合会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。)



庄野 和子
しょうの かずこ

徳島大学医学部附属衛生検査技師学校
昭和45年卒業

(元)徳島大学病院
臨床検査技師長、臨床検査技術部門長

昭和45年徳島大学医学部附属衛生検査技師学校を卒業後、徳島大学医学部附属病院中央検査部に勤務。免疫血清検査、臨床化学検査および遺伝子検査等に従事し、新規検査法やシステム導入等検査室の進展に努められました。

平成15年10月に臨床検査技師長、臨床検査技術部門長に就任。平成16年4月から大学が国立大学法人としてスタートする時期でした。

また、保健学科学生の臨地実習など学生教育も担当され、平成21年には学長より徳島大学医学部臨床教授の称号を付与されました。また、職域団体では、(社)徳島県臨床検査技師会理事、(社)日本臨床検査技師会遺伝子検査分野委員として活躍されました。

これらのことが評価され、平成23年11月には厚生労働大臣表彰を受賞されました。

現在、平成22年3月退職後も、再雇用で検査現場において臨床検査に従事されています。



オオチゴリ
ユリ科



退職された先生方からのメッセージ



退職にあたって

睦眉会会員の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。我が国の医療の発展に対する皆様の日々のご尽力に感謝申し上げます。

私事です。2013年3月までの15年半、医療技術短期大学部および医学部保健学科放射線技術科学専攻において教育研究生活を過ごしました。皆様とは学内外において勉強以外にも社会、医療、研究などについてもお話ができ、皆様の熱い思いに接し教をいただくことも多くありました。時に遅い時間まで話し込みご迷惑をおかけしたこともあったと思いますが、ご厚意に感謝いたします。

現在、私は放射線医療分野での医学物理士養成のお手伝いと、やり残した放射線生物学の実験研究を関東の地で行っています。2011年の東日本大震災直後から場所を問わず大変なご努力で支援活動をされてい

元徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授

前澤 博

る会員諸氏には敬服いたしております。私にも何ができるか考えています。京都の送り火に用いるため震災地から送られた薪は使用が拒絶されていますが、このような事態に対して放射線影響の教育研究に携わってきた者としての力不足も感じています。

人の生死の尊厳に関わる医療の現場で活動されている皆様は、日々新たな知識、技術、感性を磨かれていると思います。個人個人の成熟の上に良きパートナーを得、さらにグループとして良質な医療の提供を期待します。皆様には、日本および世界の高齢化社会医療の発展を柔軟かつ科学的な思考と技術をもってリードしていただきたくお願いいたします。

末筆ではございますが皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



ヒトリシズカ
センリョウ科

保健学科に感謝

元徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授

小野 恒子

西の空が夕焼けに染まる頃になると、保健学科5階の廊下から眺めた美しい夕日が懐かしくなります。私は医療短期大学の最後の新生を迎えた平成13年4月から保健学科の設置・さらに大学院修士課程・博士課程設置と25年3月までの12年間、保健学科の大きな変革の時を過ごさせていただきました。それまで徳島大学でのみ過ごした研究と教育に携わる年月でした



ミズタマソウ
アカバナ科

が、医療短期大学に着任早々は教育システムや研究環境など戸惑うことばかりで、如何に自己の目標を定めるべきか思い悩む日々が続きました。しかし、その後2年3年と学生の成長を間近に接しながら見守る中で、それまで研究者であるとともに教育者であることを自覚することなく、研究センターで真剣に向き合

うことのなかった大学教育の意義について改めて考えるようになりました。生命に直接関わり失敗が許されない医療技術者の育成には、理想としていた“大学は真理の探究の場である”ことだけに拘泥しては、保健学科の教員としての責任を十分に果たすことができないことを自覚する必要性がありました。一方で、将来の保健科学を担う人材は、常に新しい保健学・医学・医療をめざして革新的な研究を推進する探求心と実践力を備え、医療現場からの課題を解決していかなければならず、異端になることを恐れず未知の世界を開拓してほしいと願っています。

保健学科は私に未熟な自分に気づかせ、異なった価値観の学生・教員とともに目標に向かって進むことの楽しさと達成感を与えてくれました。感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



平成25年度 徳島大学睦眉会総会報告

【日程】

平成25年7月23日(火) 18:30～19:30
 徳島大学医学部第二会議室 * 参加者 20名 (役員会で総会に代える)

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
 - (1)平成24年度事業報告
 - (2)役員会報告
 - (3)平成24年度会計報告
 - (4)会計監査報告
4. 議案審議
 - (1)平成25年度予算案、事業計画案について
5. その他
6. 閉会

平成24年度 事業報告

1. 睦眉会主催 新入生歓迎昼食会の開催 平成24年4月6日
2. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター (活躍する卒業生)掲載 平成24年4月、9月
3. 総会・講演会の開催 平成24年6月24日
 ホテルクレメント徳島
 第9回睦眉会主催講演会
 演題 「人はなぜ悩む、楽になるとは ードラえもんに学ぶ聴くことの人間学ー」
 講師 佐藤 泰子 先生(京都大学非常勤講師)
 参加者 67名 (内 会員 44名)
4. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他5名) 平成24年10月11日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「関東びざん会(東京)」への出席(会長 他1名)
 平成24年11月18日
6. 睦眉会会報 (第12号) の発行 平成24年12月7日
7. 卒業式・医学部各賞授与式・謝恩会出席(会長他) 平成25年3月22日
8. 卒業・修了記念品の贈呈 平成25年3月22日

役員会報告

1. 役員会開催状況 (平成24年4月～25年7月)

年度	回数	開催日	場所	参加人数
H. 24	1回	平成24年5月14日 (月)	医学部第二会議室	20名
	2回	平成24年6月11日 (月)	医学部第二会議室	25名
		総会開催 平成24年6月24日 (日)	ホテルクレメント徳島	44名 (会員)
	3回	平成24年8月8日 (水)	医学部第二会議室	20名
	4回	平成25年3月25日 (月)	医学部第二会議室	19名
H. 25	1回	総会開催 (役員会) 平成25年7月23日 (火)	医学部第二会議室	20名

2. 各種委員会開催状況

委員会名	開催日	場所	参加人数
会報委員会	平成24年9月6日 (木)	看護・セミナー室	10名
	平成24年10月3日 (水)	医学部第二会議室	8名
	平成24年10月30日 (火)	睦眉会事務室	3名
	平成24年11月13日 (火)	睦眉会事務室	2名
ホームページ委員会	平成24年9月19日 (水)	病院放射線部 カンファレンス室	6名
	随時		3名

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会について
- 2) 睦眉会役員改選について
- 3) 睦眉会会員名簿発行について
- 4) 睦眉会会報の発行について
- 5) 睦眉会の役員の委員会活動について
- 6) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 7) ホームページの運用について
- 8) 新入生歓迎昼食会開催について
- 9) 卒業・修了記念品について

●● 平成24年度 睦眉会会計報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費 (147名分)	2,940,000
貯金利子	406
繰越金	5,708,456
収入合計	8,648,862

【支出の部】

項 目	金 額
総会・講演会費用	273,894
印刷費・送料 (会報代を含む)	1,280,862
会議費	440,168
慶弔費 (入学卒業記念品, 退職教員記念品代を含む)	570,660
雑費	31,144
会報委員会活動費用	39,166
事務局運営費	200,000
予備費	5,812,968
支出合計	8,648,862

【収支決算の部】

総収入額	総支出額	次年度繰越額
8,648,862	2,835,894	5,812,968

平成25年3月31日 会計 竹林桂子

会計監査報告

平成24年度の会計報告書を監査いたしました。

会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

平成25年 7月23日

監事 後藤美弥子

手塚 健一

* 以上の報告事項は、すべて承認されました。

●● 平成25年度 睦眉会予算

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費 (139名分)	2,780,000
貯金利子	500
前年度繰越金	5,812,968
収入合計	8,593,468

【支出の部】

項 目	金 額
総会費用	30,000
印刷費・送料 (会報代を含む)	1,200,000
会議費	500,000
慶弔費 (入学卒業記念品, 退職教員記念品代を含む)	700,000
雑費	70,000
会報委員会活動費用	50,000
事務局運営費	200,000
予備費	5,843,468
支出合計	8,593,468

* 予算案は、提案どおり可決されました。

●● 平成25年度 事業計画

1. 新入生歓迎昼食会の開催 平成25年4月6日
2. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター (活躍する卒業生)掲載 . . . 平成25年4月、9月
3. 総会(役員会で代える)の開催 平成25年7月23日
4. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他) 平成25年10月24日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「近畿びざん会」への出席(会長 他) . . 平成25年11月24日
6. 睦眉会会報の発行 平成25年12月頃の予定
7. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他) 平成26年3月24日
8. 卒業・修了記念品の贈呈 平成26年3月24日

* 事業計画案は、提案どおり可決されました。

平成25年度 徳島大学睦眉会役員

(2013.7 現在)

役 職		氏 名	所属	勤 務 先
名誉会長		近 藤 和 也	学科長	徳島大学医学部保健学科長 (徳島大学大学院HBS研究部：看護)
会 長		河 田 明 男	放	三船病院
副会長		岩 佐 京 子	看	徳島大学病院 泌尿器科・心臓血管外科外来
		坂 野 啓 一	放	徳島大学病院 診療支援部 診療放射線技術部門
		江 原 隆	検	徳島市民病院 中央検査科
		杉 原 治 美	助	徳島大学病院 地域医療連携センター
理 事	事務局	梅 野 真由美	検	自 宅
		市 原 多香子	看	徳島大学大学院HBS研究部 看護学講座
	総 務	竹 林 桂 子	助	徳島大学大学院HBS研究部 看護学講座 助産学
		桑 村 由 美	看	徳島大学大学院HBS研究部 看護学講座
		富 永 正 英	放	徳島大学大学院HBS研究部 医用情報科学講座
		松 浦 千恵子	検	徳島大学大学院HBS研究部 医用検査学講座
理 事	看	加 根 千賀子	看	徳島大学病院 東病棟 2階
		真 鍋 理 絵		徳島大学病院 キャリア形成支援センター
		米 田 好 美		徳島市民病院 10階病棟
		東 條 幸 美		徳島大学病院 東病棟 8階
	放	天 野 雅 史	放	徳島大学病院 診療支援部 診療放射線技術部門
		山 田 健 二		徳島大学病院 診療支援部 診療放射線技術部門
		山 岡 哲 也		徳島県立中央病院 医療技術局 放射線技術科
		安 藝 健 作		徳島大学大学院HBS研究部 医用検査学講座
	検	笹 川 知位子	検	徳島県立中央病院 医療技術局 検査技術科
		佐 藤 雅 美		徳島大学病院 診療支援部 臨床検査技術部門
		岡 本 充 栄		徳島大学病院 診療支援部 臨床検査技術部門
		中 道 玲 子		自 宅
助	前 田 恵 子	助	徳島大学病院 小児科外来	
	後 藤 美弥子		看	自 宅
監 事	手 塚 健 一	検	自 宅	

平成26年版睦眉会会員名簿発行のお知らせ

この度、平成26年版睦眉会会員名簿を発行する運びとなりました。
 同窓会会員の皆様には、すでに名簿掲載内容の確認葉書や、名簿購入の案内状が届いていることと思います。
 どうぞ協力のほどお願い申し上げます。

- 名簿発行日：平成26年8月上旬
- 名簿価格：3,000円
- お問い合わせ電話(フリーコール)：0120-981-957
 受付No. (140801)
 受付時間 9時30分～16時(土・日・祝日を除く)



<名簿作成委託先>
 この度の名簿作成は、正式な同窓会事業として、プライバシーマーク取得の株式会社サラト(姫路市)に委託しております。

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報並びに本学ホームページを御覧ください。
また、会員の皆様の御意見や御要望をお寄せください。

徳島大学総務部総務課 (Tel:088-656-7021 Fax:088-656-7012)

E-mail : kohokakaricho@tokushima-u.ac.jp URL:http://www.tokushima-u.ac.jp/



I 学内の状況

1 蔵本会館に生協新店舗がオープン

昨年から行われていた蔵本会館の改修工事が終わり、平成25年5月7日に生協新店舗がリニューアルオープンしました。蔵本会館は、1階に生協食堂や売店、2階には保健管理センター分室や国際交流室等の学生支援のための施設を備えた複合施設です。今回のリニューアルにより、生協食堂は明るく清潔感のある造りとなり、カウンター席も設置され、一人でも利用しやすいよう配慮されています。売店はコンビニエンスストアと書店の2つにわけられ、内容も充実されています。

オープニングセレモニーでは、大学院栄養生命科学教育部の大塚愛理さんから生協新店舗の説明と名前の由来等の説明があり、その後香川学長らによるテープカットが行われました。

2 2013年度五月祭を開催

平成25年5月25日と26日の2日間、常三島キャンパスにて、2013年度五月祭を開催しました。五月祭は、この春に徳島大学に入学した新入生を歓迎し、交流を図ることを目的に開催されています。2013年度五月祭のテーマは「MAYいっぱい青春」で、5月(MAY)に開催される祭りを通じて、「目一杯」大学生活を楽しめるように、という意味がこめられています。

5月25日は、朝からステージ企画、教室企画等が始まり、多くの模擬店も出店しました。ステージ企画では、ユニークなバンド演奏や華麗なダンスパフォーマンスなどに歓声があがりました。

模擬店を出店した学生たちは、慣れない手つきでたこ焼きやフライドポテト作りに奮闘しながら、仲間と協力する楽しさを味わった様子でした。

3 第64回四国地区大学総合体育大会を開催

平成25年5月24日から7月7日の期間、第64回四国地区大学総合体育大会が開催されました。四国地区大学総合体育大会は、四国内の大学体育サークルが日頃の練習の成果を發揮し、競うことで技術を高め合い、大学同士の交流を深めることを目的に毎年行われています。第64回を迎えた今大会は本学が当番校であったため、徳島県内14箇所の会場と香川県1箇所、愛媛県1箇所で行われました。

最も競技が集中した7月6日、7日の2日間は、30度を超える猛暑の中、多くの会場で熱戦が繰り広げられました。雷雨に見舞われるアクシデントもありましたが、選手たちは力を尽くし、互いの絆を深めた様子でした。

4 第17回科学体験フェスティバルin徳島を開催

平成25年8月3日、4日の2日間、徳島大学工学部において「第17回科学体験フェスティバル in 徳島」を開催しました。

本イベントは、子どもたちが実際に科学実験等に参加することを通じて、科学の楽しさや不思議さを知ってもらうことを目的とし、地域においても夏休み期間中の恒例イベントと

なっています。

各ブースでは、科学的な知識を基に、参加者の皆様にわかりやすく、面白い体験をしていただけるよう、それぞれの個性を活かした工夫が凝らされていました。

本イベントは今回で17回目を迎え、本イベントに参加した子どもたちが成長し、本学に学生として入学していることも報告されています。未来の徳大生に、本学を知り、親しみを持ってもらう意味でも大切なイベントとなっています。

II 学生関係

1 入学式

平成25年4月5日、アスティとくしまで平成25年度入学式を挙行し、合計1,941名(学部1,323名、大学院修士(博士前期)課程476名、大学院博士(博士後期)課程101名、3年次編入学41名)の入学が許可されました。

入学式では、入学生を代表し、総合科学部総合理数学科の杉本千晶さんから「本学の教育方針に従って学則をまもり、学術の研究と人格の陶冶に努めることを誓います」と宣誓がありました。その後、香川学長からは「ゆっくり腰を据え、自分のキャリアデザインを描きながら、有意義な大学生活を送られることを願います」とのお祝いの言葉がありました。

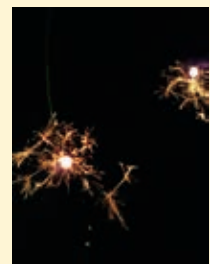
編集後記

平年よりも気温が高い夏を「暑夏(しよか)」と呼ぶらしいが、今年は暑夏と呼ぶに相応しい年だったのではないだろうか。高知県の四万十市では、6年ぶりに国内最高気温を更新する「41.0℃」が観測された。

そんな暑夏を乗り越え、夏の終わりをを感じる9月中旬に仲間内で集まって小さな花火大会を開催した。線香花火の先の玉が落ちないように周りを囲んで見守りながら、吹く風に肌寒さを覚え、またこの時期がやってきたのだと実感した。会報の締め切りである。会報委員に携わるようになって日は浅いが、会報の締め切りが近づくと夏の終わりを感ぜると同時にその年の夏を振り返るようになった。

この会報がみなさんのお手元に届く頃には、寒さに震えている時期であろうが、同窓生通信・活躍する卒業生の原稿等を読みながら、懐かしさを感じると共に、今年の夏を振り返っていたら良かったら幸いである。

来年はどんな夏になるのか、次の会報を編集している頃にまた振り返っていることだろう。



徳島大学陸国会理事

徳島大学医学部保健学科検査技術科学専攻3期生
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

安藝 健作